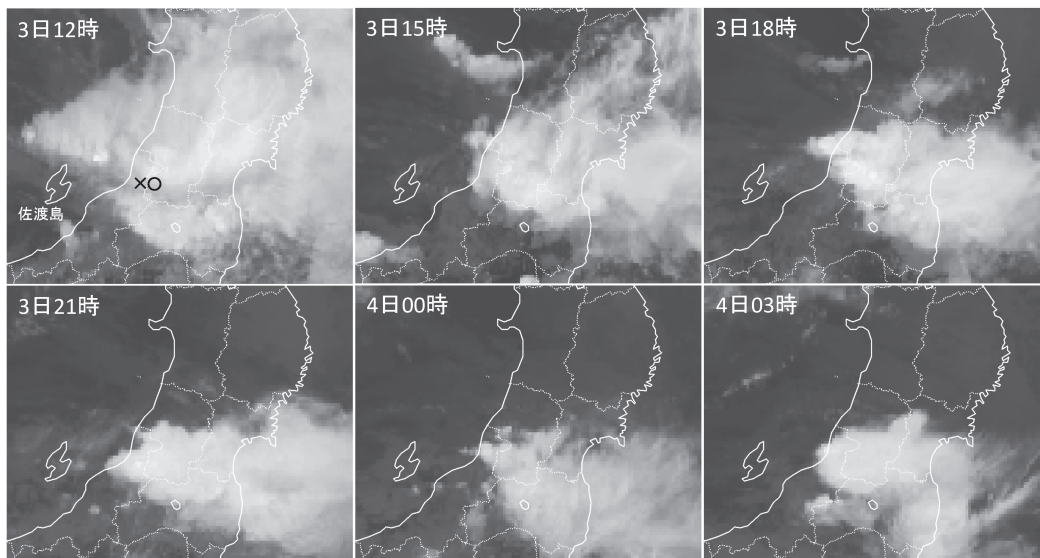


今月のひまわり画像—2022年 8 月

山形・新潟県に記録的な大雨をもたらした積乱雲



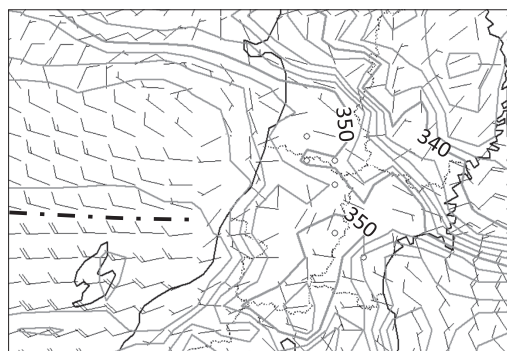
第1図 2022年8月3日12時～4日03時（日本時間）の3時間毎の東北地方付近における赤外画像。○印は山形県小国，×印は新潟県関川村下関を示す。

2022年8月3～4日にかけて、前線が東北地方から北陸地方をゆっくり南下した。前線に向かって日本の南にある高気圧の縁辺をまわる暖湿気や台風第6号を起源とする空気塊が流入したため、山形・新潟県では複数の線状降水帯が発生し、断続的に雷を伴った猛烈な雨が降り、両県を対象に大雨特別警報が発表された。

第1図は3日12時～4日03時（日本時間）の3時間毎の東北地方付近における赤外画像である。佐渡島の北西から東の海上を起点として積乱雲が次々に発生し、新潟県から山形県へ移動しており、雲頂高度は T_{BB} （等価黒体温度）によると最も高いもので14kmを超えていた。

第2図は気象庁局地数値予報モデル（LFM）による3日18時の1000hPa面における相当温位、風の分布である。新潟県の下層には日本海から358Kもの高相当温位の気塊が流れ込んでおり、積乱雲の起点は佐渡島の北にあるシアーラインの東端付近にほぼ一致している。シアーラインの南側では西～西南西の風がやや強くなっていた。

3～4日にかけては複数のアメダス観測所で24時間降水量が観測史上1位の値を更新した。山形県小国で



第2図 3日18時の東北地方付近における LFM（同時刻初期値）による1000hPa面における相当温位（2K毎）、風（長い矢羽根が10kt（1kt≒0.51m/s））。一点鎖線はシアーラインを示す。

は4日07時20分までの24時間に352.5mmを観測し、4日明け方には最上川上流で氾濫が発生した。また、新潟県関川村下関では4日02時50分までの3時間降水量が323.5mmと観測史上1位となり、現在運用中の全国のアメダスの中でも歴代5位という記録的な大雨となり、土砂崩れや800棟を超える床上浸水などの被害が発生した。

（気象庁大気海洋部予報課 原 基）